

電波資源拡大のための研究開発・平成24年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
超高速移動通信システムの実現に向けた要素技術の研究開発	H21-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のセルラシステム、特に超高速信号伝送の実現にかかる基本技術開発の知見が得られたものと判断され、有益な電波利用料の使用であったと考える。 ・11GHz帯400MHzの帯域で10GbpsのMIMO伝送実験に世界に先駆けて成功する等、日本の研究能力を示した活動として有益である。 ・10Gbpsを11GHz帯という高周波帯で実施できた成果は大きい。ただし、実用化のためには、本技術の経済性の評価が今後必要である。 	4.1
非線形マルチユーザMIMO技術の研究開発	H22-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を概ね達成しており、検討は有益であったと思われる。なお、非線形マルチユーザMIMOはピコセルのような環境での適用が向いているとの結論であるが、逆に、ピコセル環境に限定した環境での利用となると、適用する端末に対しては低演算量、低コスト化等、実用化上のハードルが厳しくなると考えられる。 ・当初目標まであともう少しと考えられる。シミュレーションばかりでなく実験装置をもう少し有効に使い、実用化の目処をつけるべきである。 ・基盤技術として十分な成果をあげた。 	4.0
自律的エリア設計運用技術の研究開発	H22-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね目標を達成し、基本的なエリア設計運用技術の見通しが得られたと判断される。 ・本研究にとって重要なポイントの1つである伝搬の問題に基礎から物理的に取り組み、さらに最適化アルゴリズムやシミュレータを開発し、目標を達成している。実用化に関しても十分考慮して研究が進められている。 ・標準化に対する取組みについては妥当なものとする。実用化については、3年後に目指すことが明記されており、期待できる。 	3.9
超高速近距離無線伝送技術等の研究開発	H22-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて有益な成果が得られている。実際に実用化を目指すシステムの具体像等が示されていると実用化がより現実味を帯びた形で伝わると考える。 ・実用化を十分に視野に入れており、電波利用料研究開発として優れた成果をあげている。 ・3年間で極めて多くの成果があり、PRや標準化への取組みも意識的に行われていることから、大いに評価できる。 	4.6
地上／衛星共用携帯電話システム技術の研究開発	H20-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・意義のある検討が行われ、今後の災害時対策の一つとして有益であると判断される。実用化の目途が立つよう検討を続けていただきたい。 ・要素技術に関しては、具体的な衛星搭載システムとしては再設計が必要と思われるものもあるが、概念設計としては十分である。 ・本研究開発成果の事業者・メーカへの展開は最大の関心事と考える。3年後の展開を見守りたい。 	3.8